

自己評価報告書

令和6年度 有馬幼稚園 自己評価報告書

園名：中央区立有馬幼稚園 所在地：中央区日本橋蛸殻町2-10-23  
 園長名：高橋 育子  
 園児数 97名 学級数 5 教員数7名 職員数7名

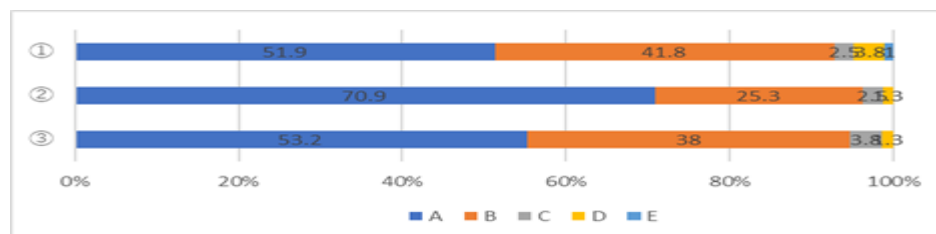
1 重点目標の達成状況及び取組状況

重点目標1 ○生活や遊びに主体的に関わり、様々な活動を楽しむ

A：十分達成している B：達成している C：改善を要する  
 D：早急に改善を要する E：わからない

評価項目 ①幼児自身が生活に必要なことを考えながら、進んで取り組むための環境づくりをする。  
 ②幼児が自分の思ったことや感じたことを様々な方法で表現できるように、環境や援助の工夫を図る。  
 ③教師や友達に自分の思いを伝えたり、相手の思いを感じたりしながら遊びの楽しさを感じられるようにする。  
 評価指標 ①幼児が自ら進んでうがい・手洗い・遊んだ後の片付けなどを行っているか。  
 ②身の回りの遊具や用具などを用いて作ったり遊んだり表現したりすることを楽しんでいるか。  
 ③教師や友達に自分の思いを伝えたり、相手の話を聞いたりしているか。

評価結果（保護者）



評価結果（教員）



<重点目標1について>

○保護者は①～③の項目とも十分達成している・達成しているが90%を超えている。①については、園での子どもたちの取り組みの様子も、コロナ渦を経て手洗い・うがいのよい習慣が身に付いてきているものである。  
 ②の身の回りの遊具や用具を使って遊んだり、作ったりの項目は、日常の遊びの充

実とともに、展覧会の機会があったことで、保護者により理解が得られたと考える。  
 ③の教員の評価では、思いのやりとりについて課題があるとの回答があった。自分の思いや考えの伝え方、相手の話を聞いて考える力、自分の思いが通らなかった時の気持ちの切り換え方など、幼稚園の生活の中で幼児が日々経験していることである。これからも生きる力として必要なこれらの経験を大切にしていく。

## 重点目標 2 ○健やかな体と心を育む

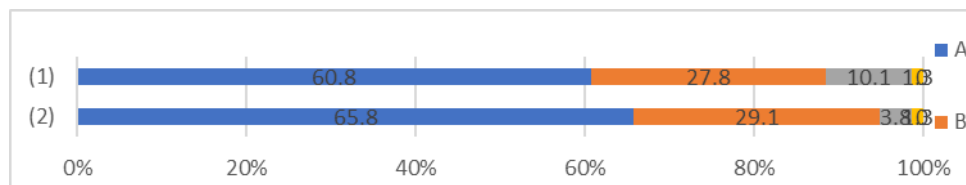
評価項目：①幼児自ら体を動かして遊ぶことの楽しさを感じるための環境を充実させる。

②幼児の身近な自然物を遊びに生かし、見たり触れたりする機会を増やす。

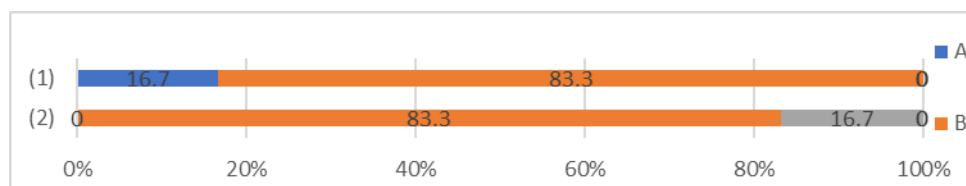
評価指標：①幼稚園の遊びや生活の中で、いろいろな体の動きを経験しているか。

②季節の草花や生き物などを見たり触れたりすることを通して、身近な自然に親しんでいるか。

評価結果（保護者）



評価結果（教員）



### <重点目標 2 について>

○保護者の評価では、両方とも、十分達成が60%以上であるが、体を動かして遊ぶことが楽しい環境づくりの項目については、早急に改善を要するが12%いる。幼児によって、体を動かす遊びの得手・不得手感が大きいことも影響があると考えられる。幼稚園では意識的に戸外で遊んだり、様々な体の動きが出来るような環境をつくったりしているが、保護者への発信が十分でなかったことも評価の要因の一つである。

また、教員の意見で、幼児が身近な自然との関わることに課題を感じている意見があった。これから有馬ガーデンの十分な活用を図る必要がある。

## 重点目標 3 ○幼稚園と保護者の連携を進める

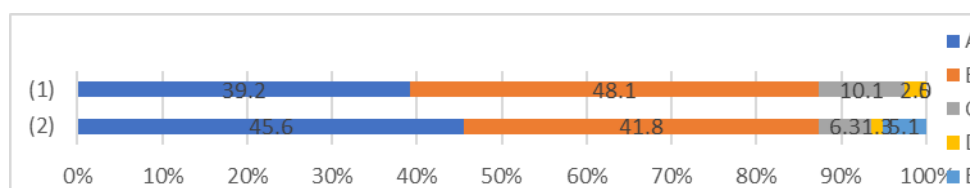
評価項目：①園の教育内容や幼児が経験していることを、各種便りや園務支援システム「ルクミー」などで伝える。

②教員と保護者が連絡を取り合いながら、ともに子育ての楽しさを感じる。

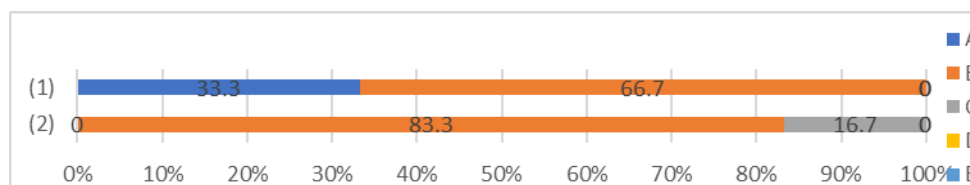
評価指標：①園便りや園務支援システム「ルクミー」、全体保護者会や学級懇談会、行事への参観・参加などを通して、園児の様子を知ることができたか。

②連絡カード(随時)・個別降園(隔週)・園長相談日(月2回)・個別の相談(随時)等を生かして、必要な連絡を取り合うことができたか。

## 評価結果（保護者）



## 評価結果（教員）



### <重点目標3について>

○保護者の評価は、二つの項目とも達成が87%とやや低い。ルクミーの有効活用やホームページの充実については、保護者とともに、教員の評価でもこれからの課題として挙げた。教員の評価では、子どもたちが保育の中で経験したことを、タイムリーに知らせることができ、親子の語りにもつながったことがよかったことが大きな成果であった。これまでの経験を基盤に、幼稚園の教育を保護者や地域へ、具体的に知らせていく工夫を図ることが必要である。

### 2 重点目標以外の自己評価における達成状況及び達成のための取組状況

保護者の評価は、「よくあてはまる・あてはまる」が90%を超えている項目が多い。特に「よくあてはまる」が60%を超えている項目として

- ・教職員は幼児を理解して指導にあたっている。
  - ・教職員は協力してあたたかく幼児の指導にあたっている。
  - ・幼児は明るく伸び伸びと幼稚園生活を送っている。
  - ・幼児が体を動かして遊ぶことや自然に触れる経験に進んで取り組む。
  - ・園内外の清掃、整理などの環境整備が行き届いている。
- がある。

これらは、教職員が一体となって、子どもたちのために教育活動を進めていったことで、理解を得られたと考えられる。

一方で、「よくあてはまる・あてはまる」の評価が80%の項目が以下のようにあった。

- ・幼稚園は保護者にとって相談がしやすく親身になって対応している。
- ・併設の小学校や近隣の保育園との連携が積極的に行われている。
- ・幼稚園公開や情報発信～保護者や地域に開かれた運営が行われている。
- ・幼児は幼稚園に行くことを楽しみにしている。
- ・保護者は幼稚園の教育活動に積極的にかかわっている。

これらの項目については、「改善を要する」「分からない」の声にも目を向けていく必要がある。特にPTA活動や保護者参加の行事については、子どもたちのために参加してよかったと感じられる工夫をしていく必要がある。

小学校との連携については、保護者の評価と同様に教員の評価の項目でも課題として挙げられた。

保護者との連絡については、月に一度降園前に、全員の保護者と個々の子どもの育ちや変容についてお知らせする「個別降園」の機会を設けているが、日常でもこうした気軽に声を掛け合える雰囲気を大切にすることが必要である。

また、ホームページやルクミーの活用を通して、保護者や地域の幼稚園教育への理解を図る工夫も必要である。

### 3 今後の改善方策

- ・幼稚園と保護者が、子どもたちのために力を出し合って協力して日々の取り組みや行事を行うために、今年度 PTA 活動や保護者参加の行事についてのアンケートをとったのでこの結果を生かしつつ、教育活動を進めていく。
- ・幼小連携については、交流を通して互恵性のある経験ができるよう、来年度は高学年や1年生と関わる機会をもつことや、「探究活動」を通して、互いの教育のつながりを知るきっかけになるように幼稚園から働き掛けていく。
- ・保護者や地域の方々に、幼稚園教育を具体的に知らせていくための、ホームページの充実を図る。また、ルクミーで知らせる内容の中に、日常の遊びを入れたり、時には保育の場面を映像で知らせたりするなど、様々な工夫を図る。

今年度の振り返りを生かしながら、子どもたちのためによりよい教育活動が進められるよう、教職員・保護者・地域の力を出し合い取り組んでいく。